

2022年1月31日

2021年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

地域で妊娠糖尿病の妊産婦に対して行政保健師が医療機関  
と連携して行っている支援内容

Support Provided by Public Health Nurses in Collaboration with Medical Institutions for  
Pregnant Women with Gestational Diabetes in the Community

20MN016  
佐藤里菜

## 論文要旨

〈目的〉 妊娠糖尿病対策を先駆的に行っている地域において妊娠糖尿病の妊産婦に対して行われている保健師の支援内容を記述し、妊娠糖尿病の妊産婦に対する自治体と医療機関の連携や行政保健師の役割を考察する。

〈方法〉 本研究はインタビュー調査による事例検討である。研究対象者は、妊娠糖尿病の妊産婦に対して、先駆的に自治体と医療機関が連携した支援を実施している地域の行政保健師とし、A 県 B 市で妊娠糖尿病の妊産婦に対する支援事業に携わっている行政保健師 2 名に半構造的インタビュー調査を行った。

〈結果〉 A 県 B 市では糖尿病に関連する疾病の医療費が多い状況があり、糖尿病予備群への関わりが課題とされ、糖尿病専門医との情報交換の中で、女性はなかなか健診の機会が無く糖尿病を見逃している人が多いこと、受診した時には病状が進行しており、透析一歩手前の人も数名発生したことなどから、糖尿病対策の一環として、自治体と医療機関で先駆的に妊娠糖尿病支援事業を立ち上げ支援に取り組むこととなった。

自治体において保健師が行っている支援内容について分析した結果、【妊婦全体への妊娠糖尿病の周知や啓発】、【機会を大切にとらえた妊娠糖尿病妊産婦への働きかけ】、【産後も支援の流れから外さないための関わり】、【医療機関との支援体制の構築】、【GDM 小委員会を活用した情報共有のシステムづくり】、【産科や内科医療機関と協働での妊娠糖尿病妊産婦への関わり】、【妊娠糖尿病支援事業を発展させる取り組み】の 7 つの支援内容に分類された。保健師は妊娠糖尿病対策を、糖尿病発症リスクの高い住民にアプローチできる機会、青年期の住民にコンタクトできる貴重な機会と捉え、妊産婦が長期的に自分自身の健康管理に気持ちを向けられるよう、育児支援の一環として支援を行っていた。

また、妊娠糖尿病支援事業における課題も語られ、【妊娠糖尿病への妊産婦の意識のばらつき】、【産婦の生活改善の難しさ】、【産後の受診や教室参加の難しさ】、【切れ目のない支援の難しさ】、【事業の評価の難しさ】の 5 つに分類された。

〈結論〉 地域の妊娠糖尿病支援事業における行政保健師の役割として、①全ての妊婦に妊娠糖尿病を周知する、②妊産婦が家族全体の健康に意識を向けることができるようにアプローチをする、③産後に家庭訪問をして生活習慣などの助言をする、改善を一緒に検討する、④支援の流れから外さず、2 型糖尿病への移行を予防する、⑤地域や対象の現状を把握し、支援を行いやすい環境を整える、⑥事業を評価し、事業を発展させていく、⑦母子と医療機関を繋ぐの 7 つの役割が考えられた。